

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174700898		
法人名	株式会社アルムシステム		
事業所名	グループホーム東めむろふれあい館1		
所在地	河西郡芽室町東めむろ3条北1丁目8-4		
自己評価作成日	平成26年11月13日	評価結果市町村受理日	平成27年3月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kan=true&jigyosyoCd=0174700898-00&PrsfCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成26年12月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々の生活の中で本人のペースで無理のない、自由な生活を送って頂ける様に心がけている。
 一緒に季節を感じ、一緒に楽しみを感じながらの生活の支援を行なっている。(お祭りの参加や紅葉狩り、美味しい物を食べに行くなど)
 ホーム横に花や野菜畑があり、外気浴しながら、季節を感じながら眺めたり、手入れや収穫を楽しんで頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然に恵まれた閑静な住宅地に位置し、玄関先や居間の壁にひな祭り・クリスマスなどの季節を感じられる掲示物を貼って、季節を感じてもらおう工夫をし、気持ちがリフレッシュするよう配慮をしている。職員は明るく笑顔で、利用者自身が出来ることは無理せずに任せ、持っている能力を引き出すようなアプローチを行っており、単にケア中心ではなく、生活の充実を心がけている。外気浴を兼ねて、デッキのプランターで花を育てて、利用者は職員と一緒に水やりをしながら、季節に咲く花を見て楽しんでいる。事業所横の菜園で、職員は利用者から野菜収穫時の見分け方について指導助言を受けたり、西瓜、じゃがいも、大根、人参、ヤーコンなど一緒に手入れ、取り入れをしたりして季節ごとに食卓を彩り、話題にしながら食事を楽しんでいる。月1回のペースで紅葉狩りや花見などの外出も行って、気分転換やストレス解消に努めている。地域の祭りに参加し、グループホームの夏祭りや防災訓練に地域住民の参加があり、住民から家庭菜園で収穫された野菜の差し入れ、散歩の時には挨拶を交わすなどして交流している。地域に密着している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念により、職員全体で地域密着サービスを目指して取り組んでいる。会議等でも周知している。又事業所に見合った独自の理念を職員と話し合い共有し実践している。	職員が話し合って事業所独自の理念を作り、壁面に掲示し、毎月の会議で確認して、職員で共有しケアに繋げている。更に職員が交代で毎月「一言職員目標」をたて、全員で実現を目指している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	事業所は、地域町内会に加入し、町内会行事等に参加し交流を図っている。ホームでの夏祭りに地域住民の方に参加してもらっている。	グループホームの基本を理解して地域密着を実践している。町内会に加入し、散歩のときには住民と気軽に挨拶を交わしている。地域のお祭りを見にゆき、事業所の夏祭りには地域の住民が来訪するなど相互の交流がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所が行なう夏祭りに町内会員を招待参加をし交流を図るように努めている。又、運営推進会議等により、町内会の参加を募り交流を図っている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、サービス提供状況の報告などを行い、参加された方々の意見や質問は、ユニット会議などで取り上げて周知している。又会議の場で民生委員や地域包括の方と、茅室町の現状や事業所の情報を共有し、意見交換の場を持っている。	町職員、包括支援センター職員、民生委員、町内会役員、家族などが参加して年間6回実施している。事業所の状況を報告して、事故事例や事業所行事について意見や助言を得て、サービス向上につなげている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	自己評価、外部評価等を提出し又運営上の質疑等には積極的に相談しケアの向上に努めている。運営推進会議等を活用し、民生委員や市担当者との意見交換や情報交換を行なっている。を求めたりしている。	生活保護の更新、外部評価の結果報告等で定期的に役場を訪れ意見交換、情報を得ている。また、運営推進会議を通じて町担当者と密接な情報交換と連携関係ができています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人で身体拘束廃止推進委員会を設置し、全職員が身体拘束廃止を徹底、社内研修や外部評価の参加で知識を高め、研修内容は随時職員と共有する場を設けている。また、夜間のみ玄関は施錠し、日中は自由に入出入りできる環境にしている。	法人が設置している委員会活動が活発なので職員を受講させている。研修記録報告と職員会議を通じて伝達して身体拘束をしないケアに努めている。防犯のため夜間は施錠しているが、日中は自由な出入りが可能。徘徊経験があるので、普段から見守りによって出入りに注意しながら危機意識を持って対応している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人で高齢者虐待防止検討委員会を設置し、委員会で検討し社内研修にて報告意見交換を行なっている。委員会は定期的開催している。外部研修の参加で知識を高め、研修内容をもとに勉強会を取り入れ職員の虐待防止への意識を強化している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、制度上困難な事項が多く、又、良好な家族関係の利用者の為、活用されていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については事前に利用者及び家族に閲覧していただき、契約時に説明し質問等を聞き確認してから契約を行なう。解約時は次の生活場所の相談支援を行なっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を定めている。又ご意見箱を設置し意見を受けている。現状ではご意見箱の利用がないため、面談、面会時には意見を求めコミュニケーションを強化し意見交換のしやすい環境を目指している。意見があった場合はスタッフ全員で会議を持ち運営に反映している。	日々利用者からの意向を聞き取り、その人固有の癖や動作により判断がつく場面があるので職員で共有している。家族が訪問した機会を利用して聞き出す努力を重ねている。その結果、読書の好きな利用者2名の希望にそってホーム図書室を設置して好評である。	事業所への訪問が難しい家族にホームの運営に興味を持ってもらい、ゆくゆくは参加・協力を得られることができるように、現在月1回送付している家族通信に利用者の一日の過ごし方を添付したり、イベントへの参加を促すなどして、家族から何らかの積極的な反応を引き出すことを期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は組織体制により上層部に上げていく体制で反映している。	管理者は職員の気づきを歓迎しており、毎月の職員会議で様々な提案がなされている。例えば「消毒に関する機材置き方の改善」提案が職員から会議に提出されて、話し合い検討し改善に至った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社での就業規則に定めている、又職員の評価を行い実績、勤務状況を把握し反映している。代表者は給料水準の見直しを実施、管理者は職員との定期的面談で、目標ややりがいの有無を常に確認している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社全体で職員研修を実施全員が研修を受けられる機会を確保している。外部研修にも積極的に参加しケアの向上に努めている。毎月の会議を通じて職員研修を行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	十勝グループホーム協議会に加入し、同業者とのネットワークづくり、又、相互評価事業により評価を受けサービスのケア向上に努めている。ケアカフェの参加で、事業所と関連のある他職種との交流の場を持ち、サービスの質の向上に反映させる努力をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学や入居前に訪問面談し、御本人の要望等を聞き満足し希望された時点で入居をしていただくよう努めている。面談時の情報は、スタッフに周知し適切なケアが行なえるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に対しては、利用料、サービス内容を説明し、要望等に対して出来るだけ満足、安心、信頼して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用開始前に本人及び家族の生活歴、主治医、各関係機関の生活等を把握しアセスメントにより支援するサービス内容を見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来るだけ本人のペースに添って自分出来ること、支援が必要なことを把握し、その人らしい安心した生活をしていただける様努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族がこれまで抱えていた介護に対する思いを受け止め、本人と家族が今後も良好な関係を築いていけるよう支援している。又月1回のおたより等で利用者の現状報告し親密な関係を築く様努めている。面会時には家族の思いや希望を聞きケアに反映できるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の友人、知人については出来るだけ疎遠にならないよう支援に努めている。	事業所ですっかり馴染みになった理美容師が定期的に訪れている。老人会へ参加している利用者は新しい馴染みが出来つつあり、職員は送迎をして馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の良好な関係を築くため、部屋の閉じこもりを本人の負担を考えながら、出来るだけリビングでの時間作りに務めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況			実施状況		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居され、入院や別事業所に移られたあとでも、面会に行っている。また、家族からの電話、相談があれば情報を提供して支援している。					
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント								
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりを通じて、その方の思いや望まれる事の把握につとめている。困難な場合はケース会議及び家族の意見も聞き対処している。	利用者それぞれの思いに焦点を当てて、実現するように努めている。例えば競馬の好きな利用者と帯広競馬場に出かけて、帰りに馬の写真を購入したりしている。				
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前のアセスメントで情報収集したり、利用者のなじみの家具、食器類を利用し、出来るだけ生活環境の変化を少なくし、その人らしい生活を送れるように支援している。					
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の心身の状況を把握し、その人の有する能力(ADL・IADL)に変化があれば、会議で討議している。24時間の記録用紙を使用、またはペンで色分けをし一日の過ごし方を把握している。					
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ、本人、家族の意見を聞きながら毎月、又特変時に会議にてモニタリング、カンファレンスを行い、現状に即したケアを実践している。毎月、又は特変時の会議で評価し、安定時は6ヶ月をめどに、特変時や状態変化時は期間を問わず随時話し合いケアプランに反映させている。	本人や家族の要望を聞きながら定期的に会議にてモニタリング、カンファレンスを行い、現状に即した介護計画を作成している。見直しは6ヶ月をめどとするが、状態に変化があれば随時話し合っケアプランに反映させている。				
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子、体調変化や気づきは特記事項は専用の欄に記入し、一目で分かるように色分けをしている。職員同士情報の交換、共有し介護計画の見直しに活かしている。					
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族、本人の要望等に応じ、柔軟に対応できる様に心がけている。家族との連絡も密に行い、本人が行きたい所へ出かけたり、要望を出来る限り叶えられるような体制作りをしている。					
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの店への買い物や散歩、町内会の集まりに参加、地域の皆様も理解してもらう様に案内をだし、施設の祭りに参加したりと交流を深め楽しむのある生活できるように幅広く務めている。					
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	従来のかかりつけ医を基本に受診の際は職員同行の他、家族が通院の協力も得ている。月2回の往診もあり細かな事で相談できる様に務めている。	本人、家族の希望に添ったかかりつけ医に受診できるよう支援している。通院同行は基本的には家族がしている。ただ、職員の都合つく限り職員同行に努めて、利用者の状態や普段の様子を医師に報告して、利用者が安定的にかかりつけ医に受診できるよう支援している。				

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は配置時は看護師に介護職員から日々の利用者の状態や情報を伝えアドバイスをうけながら日常の介護や関わりに活かしている。往診時には訪問看護師に日々の情報を提供し医療的アドバイスを受けて、利用者の体調管理に務めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者との情報交換、訪問面談等を行い受け入れ体制を整え早期退院に向けての取り組みを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については、本人、家族と話し合い、説明をしてお互いの方針を共有し支援に取り組むよう努めている。契約時に、重度化や終末期に向けた方針の書面を提示し、事業所のできる事の理解を求めている。ターミナル、看取りの研修にて職員の意識強化・環境整備を進めている。	終末期に関して契約時に事業所で出来ることを書面で説明して、同意をもらっている。現実化した時には、医師などの意見をもとに現状を説明して、家族が最良の方法を決断することができるように支援をしている。看取りについての研修を定期的に行い、職員の関心を高めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時及び、事故発生時の応急手当等、については社内研修において関係機関による実践訓練の実施を随時行なっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	防火、防災対策要綱を設置し法人全体で対策を行なっている。各施設で年2回の防火防災訓練を消防署の協力により実施している。	消防署の協力、運営推進会議、地域町内会の参加を得て、年2回防災訓練を実施している。とくに夜間想定で行う訓練で浮き彫りになった問題点を、一つ一つ解決するよう、会議や運営推進会議で議論している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の人格やプライドを傷つけない接し方をし、その人が理解出来る声掛けを行なっている。	個人を尊重することを第一に考え、利用者と同じ目線で行うなど声掛けのしかたに配慮して人格を尊重し、又書類を放置しないなどプライバシーを侵害しないケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	心身の様子を観察し、本人の思いには傾聴し、解決できる事は一緒に考え助言。本人の思いなど家族にも伝え共有している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	1日の流れを優先するのではなく、その人が行きたい所には出来る限り叶え、一人ひとりに応じた生活スタイルに合わせた支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張美容にて本人の希望に応じた髪型にしてもらい、なじみの美容室ある方には利用して頂いている。毎朝下着は交換し、清潔を保持し洋服を選ぶ際は、本人に天候、四季を伝え一緒に選んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週1は利用者が食べたい物を聞きだし一緒に買い物へ行ってる。食欲が増すように彩りの工夫。職員も一緒に食卓を囲み、談話しながらの食事。配膳や片付けを手伝ってもらっている。	週1回は利用者の希望を聞いて可能な限り応えている。一緒に買い物に行ったり、食事の準備や後片づけをしてもらい、職員と一緒に食卓を囲み、会話をしながら食事をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事量が一目で分かる様にバイタル表に記録している。誤嚥の可能性のある方にはお粥食、ミサー食、刻み食等その人に応じた食事形態をとっている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行なうように声掛け、見守りや介助をしている。同時に口腔内トラブル、歯の様子観察も行なっている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、個々に応じた誘導を行なっている。状況に応じてパットの種類、リハパンの着用を使い分け支援を行なっている。常にパットを使用している方には、起床時、夕方陰部洗浄を行い細菌による感染を繰り返さないよう務めている。	尿意、間隔等を配慮しながら排泄パターンを把握して、適時の声掛けによってトイレ誘導している。利用者の状態に合わせた下着、リハパン、パットを使い分けながら自立に向けた支援を行っている。入居時より改善した例が見られた。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘時の兆候を把握し、腹部の張りを観察、マッサージ等を行う必要に応じて坐薬や浣腸を使用するが、なるべく下剤を使用しない自然排便を心がけている。また10時の飲み物の際には、乳製品を飲んでもらい対応している。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日を決めるのではなく、個々の状態に応じていつでも入れる環境をつくっている。拒否がある方には時間をずらして声掛けを行い、気分が乗った時に気持ちよく入ってもらっている。	毎日入浴が可能である。入浴を嫌がる場合に事業所の都合で無理強ひせず、声掛けの時間を代えたり、人を代えたり工夫している。楽しい入浴になるように、お話をしたり、一緒に歌を歌ったりしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠れないときには無理に休むのではなく、その方に応じた就寝時間に合わせている。また夜遅かった方には、起床を遅らしたり配慮している。日によって室温や寝具の調整を行ない、熟睡できる様に心がけている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服用している薬が分かる様に一覧表をつくり、薬の種類を把握している。処方内容が変わった時には業務日誌に特記として記入。変更前後の様子観察を徹底している。時には、薬剤師に相談をおこなっている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意分野を引き出し、刺繍が好きな利用者には、用具を揃え出来上がった物を使う事で感謝の気持ちを伝えている。身体を動かすのが好きな方には、一緒に掃除機掛け、床拭き、牛乳とり、おしぼり作り、食器拭き等行なっている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良いときには散歩や、欲しいものがあればその日に買物いける様に対応している。四季を感じてもらう為に行事を計画、月1回は利用者で外出している。嗜好物をたべに外出や1対1の関わりも大切に心がけている。ご家族の協力により、外食、外泊など支援も行なっている。	ストレス解消のために天気の良い日は散歩をしたり、買物、事業所の畑の作業を見ながら日向ぼっこをしている。年間行事予定を立てて、花見や紅葉狩りなど季節を感じてもらう外出を行っている。個々に通院帰りに寄り道したり、競馬場へ行く等している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭はホームが管理しているが、買物希望時や外出時に、金銭に対して不安がないように説明や声かけを工夫し支援している。いつでも一緒に買物等が出来る環境を提供し、金銭の管理について不安がないようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から電話掛けたり、自由にできる環境をつくっている。ご自身の携帯を持っている利用者もあり、家族との関わりをとっている。字が書ける利用者もいるので、今後は家族へのお便りも同封するなど支援も努めていきたい。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先や室内の壁には四季を感じれる掲示物を貼っている。共用スペースは清潔を心がけ、またソファでゆっくりくつろげる様にクッションや膝かけを用意している。夏にはデッキに花を置き、利用者と一緒に水やりをしている。自分の居場所が決まっている利用者には席をあけておく配慮をしている。	壁にクリスマスや節分など季節を感じれる掲示物を貼り、話題にしている。居間の横にあるデッキにプランターを置き、季節の花を見ることができる。加湿器等で温湿度が調整されて居心地がよく、利用者それぞれがくつろげる居場所が確保されている。長い廊下で運動することができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを置き、座る配置も選べるように対応、仲良く話せる様に支援している。上がり座敷には布団も置き、横になり休めるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の時には長年親しんだ家具をもってきてもらい、少しでも自宅に近づける様な居心地の良い環境作りをしている。居室には家族の写真、行事での外出の思い出、遺影や位牌も置き故人へ偲ぶようになっている。クローゼットもあり居室に自分の物を全て保管できる様になっている。	居室は南に面していて明るい。長年馴染んだ日用品や小物、家具を持ち込み、居心地の良い住空間になっている。職員が協力して、自宅で過ごすのと同じような気分になるように家族の写真、遺影や位牌などそれぞれの好みで飾り付けをしてある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には表札を提示、ベットでの起き上がり、立ち上がりしやすい様に個人に応じた手すりを設置。室内の掲示物も目線に合わせて分かるように貼っている。傾きのある方には肘置きつきの食卓椅子を用意したり、滑り落ちないように、座布団の下には滑り止めのシートを敷いている。		